

山形県立山形盲学校 小学部

特別活動、理科

ICT を使った交流で東北盲学校・視覚支援学校の仲間と伝え合おう

日 時：授業① 令和6年6月24日（月）13：25～14：10

授業② 令和6年9月13日（金）11：50～12：35

場 所：小会議室

対 象：授業① 小学部全学年 7名（盲6名、弱視1名）

授業② 小学部6年1組 2名（盲2名）

授業者：石澤 洋喜 教諭

1 主に活用した機器・コンテンツ

授業①・Zoom

授業②・Google フォーム ・VoiceOver（スクリーンリーダー）

2 授業

(1) 本時の目標

授業① 見えない、見えにくい同じ境遇にあり、他県の盲学校・視覚支援学校に通う仲間を知るとともに、オンラインでのコミュニケーションの方法を知り積極的にコミュニケーションをとることができる。

授業② 理科レポートの他県視覚支援学校の仲間からの感想を読み、次のレポートの工夫を発表する。

(2) 指導過程

授業①（「東北盲学校・視覚支援学校小学部オンライン交流会」：小学部児童全員参加）

時間	●主な学習活動	○ICT 活用ポイント、留意点	使用機器 コンテンツ	情報活用能力
導入 5分 協同 C4	●活動のめあてを知る 東北代表児童より、 交流の目的の確認	○ウェブカメラで児童を映す。オンラインでは、見た目の印象も相手に伝わるため、姿勢や表情にも気を付けるよう指導する。	・Zoom	A2①hステップ1 相手に伝わるようなプレゼンテーションの方法
展開 35分 協同 C1 C4	●自己紹介、クイズ発表 ウェブカメラの向こうの仲間に向かって自己紹介とクイズ発表を行う。	○ICT 活用ポイント1 クイズ発表では、カメラの向こうの仲間に答えを言ってもらい、相互のやりとりを楽しめるようにする。指導者は、カメラの向こうの挙手の状況や表情などの様子を画面で確認し、口頭で児童に伝える。	・Zoom	A2①hステップ3 聞き手とのやりとりを含む効果的なプレゼンテーション方法
まとめ 5分 協同 C4	●ふりかえり 活動を振り返る 今後の見通しをもつ	○カメラの仲間に感想を伝えるとともに、カメラの向こうの発表者に身振りで拍手を伝える。	・Zoom	A2①hステップ3 相手を意識したプレゼンテーションの方法

授業②（小6理科「レポート作成の工夫ポイントをまとめよう」：6年1組）

時間	●主な学習活動	○ICT 活用ポイント、留意点	使用機器 コンテンツ	情報活用能力
導入 5分 一斉 A1	●めあてを知る 理科のレポート作成について確認する。	○Google フォームに投稿された感想入力者一覧をVoiceOverで流す。オンライン交流で知り合った仲間の名前があることを確認する。	・Google フォーム ・VoiceOver	A1②dステップ2 身近な生活におけるコンピュータの活用
展開 35分 協同 C4	●レポートの感想を読み、工夫を考える ① 感想を聞く。 ② レポートの構成を考え発表する。	○ICT 活用ポイント2 自分のレポートを読んでもくれた仲間の感想を聞き、「また読みたい!」と思ってもらえるレポートのための工夫を考える。	・Google フォーム ・VoiceOver	A2①hステップ4 Web ページ、SNS 等による発信・交流の方法
まとめ 5分	●次時に向けて 次回のレポート作成について確認する。	○ICT 利用により、同時にオンラインで顔を合わせなくとも交流することもできることを話す。		A1②dステップ3 社会におけるコンピュータの活用

3 ICT 活用ポイント

ICT 活用ポイント1

オンラインでの発表を行う上で、口頭でのコミュニケーションに加え、身だしなみや姿勢、表情、ジェスチャーでも相手に与える印象が良くなり、コミュニケーションがスムーズになることを指導する。盲児童がいるため、オンライン交流中に画面に映る相手の様子などを口頭で説明する。

- * (1) オンラインでは、会話や発表の時間以外も相手に見られていることを知る。それを踏まえ、見た目でも相手に印象が伝わるため、オンラインをするときどんな心構え（服装などの身だしなみ、顔の向き）が大切かを考える。
- * (2) クイズに答えるときは、頭の上で○や×のジェスチャーを出したり、解答番号が書かれた札を大きく掲げたりする練習をする。
- (3) カメラに自分たちがどのように映っているか、先生から聞く。
- (4) 実際にオンラインで交流しながら、
 - ①カメラの向こうの仲間がどんなことをしているのか、どんな表情をしているのか先生から聞く。（例：「首をかしげていますよ。」「嬉しそうな表情ですよ。」）
 - ②反応を返す（例：ジェスチャーする、もう一度繰り返して説明する、待つ）。

*・・・事前学習

ICT 活用ポイント2

年間を通して継続した交流を行うのために、交流する他県の盲学校・視覚支援学校（八戸盲学校、宮城県立視覚支援学校）の6年生に読んでもらい、Google フォームに感想を入力してもらい、オンライン交流であると交流先の学校と時間を合わせる手間を省略し、継続した交流ができるようにする。

- * (1) 本校児童のレポートを指導者が Google サイトやメールを使って交流先の盲学校・視覚支援学校の6年生に届け、読んでもらい、Google フォームに感想や意見を入力してもらい。
- (2) 児童は、iPad で VoiceOver を起動し、項目移動（1本指右フリックや左フリック）しながら入力者氏名や感想を確認する。同じ学習をした仲間がレポートをどのように感じてくれたかを知る。
- (3) 感想や意見を踏まえ、レポートの構成を考え、発表する。

*・・・事前学習

4 活用の成果

- ・授業1で、オンラインで交流を行ったことで、カメラの向こうにいる仲間を意識し、身だしなみや姿勢にも気を付けて行うという、オンラインだけではなく社会的なマナーを学習するきっかけとなった。
- ・授業2で、年間を通しての交流とする際、相手校と時間をそろえることなくレポートの感想をもらう Google フォームを利用したことで、継続した交流につなげることができた。また、スクリーンリーダーと画面タッチ操作を習得する機会となり、ICT 操作の基本を学ぶ時間につなげることもできた。
- ・さまざまな ICT 機器やコンテンツに児童が出会い、どんな場面でどんな ICT を利用できるかを知ることができた。
- ・ICT を利用することで、県外の盲学校や視覚支援学校に通う同じ境遇の仲間とつながりを持ち、会話や意見交換することができた。将来的にもこのつながり続け、悩みを相談し合ったり、喜びや苦労を分かち合ったりすることができる仲間をつくるきっかけになった。